



アルコニックス株式会社

オンライン会社説明会

取締役 常務執行役員CSO
取締役 執行役員CFO

鈴木 匠
高橋 伸彦

東証プライム 3036

グループ企業理念の真髄



えが
夢みた未来を描く

当社の事業規模

(2023年3月末 時点)

売上高	1,783億円 (国内 : 35% 海外 : 65%)
経常利益	81億円
連結従業員数	3,185名
時価総額	422億円

商社流通
(卸売)

製造
(生産)

原料・素材

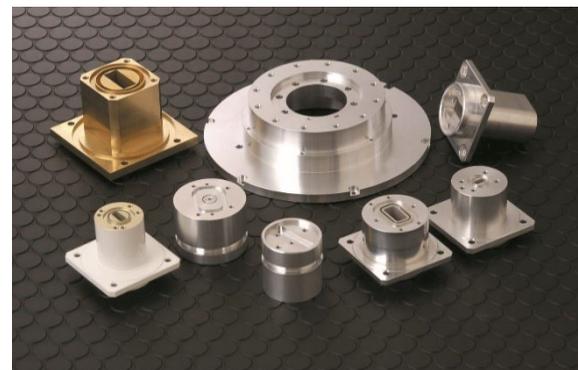


**アルミ
圧延品**



**レアアース
インゴット**

部品・部材



**金属加工
部品**



**建築
資材**

当社グループの主な関連領域



セグメント解説

精密金属加工部品の生産

金属加工事業

製造

主要な
事業領域



自動車



半導体
製造/実装 装置



業務用エアコン

電子機能材事業

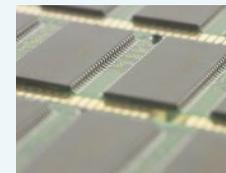
商社流通

各種高機能材料や
レアメタル・レアアース原料の取扱

主要な
事業領域



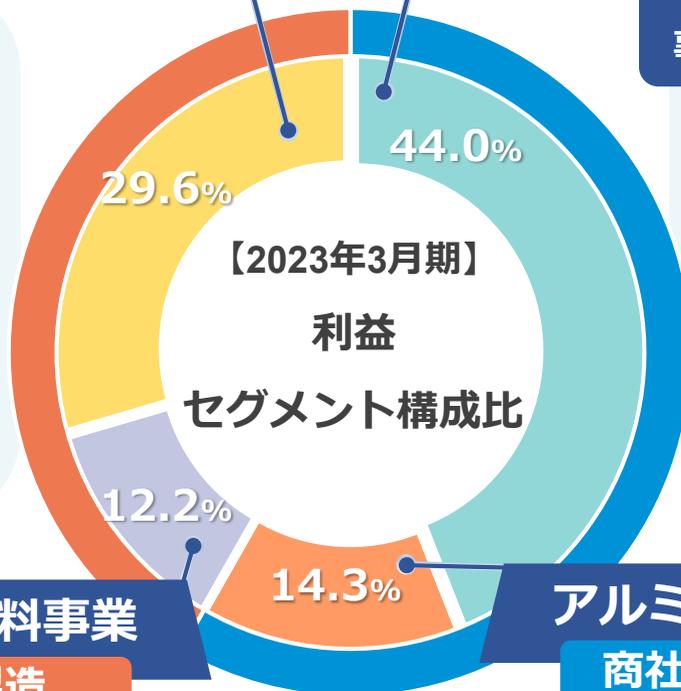
IT端末



半導体・電子部品



二次電池



検査・試験装置及び
自動車・半導体分野の各種材料の生産

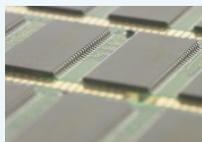
装置材料事業

製造

主要な
事業領域



自動車



半導体・IT機器



鉄鋼

アルミ銅事業

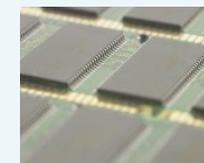
商社流通

ベースメタル原料・部品の取扱

主要な
事業領域



自動車



半導体・電子部品



家電製品

【本日の注目ポイント】

- 「企業価値向上への想い」
- 「『価値共創』のM&A」
- 「未来を創る事業戦略」

企業価値向上への想い

◆ 第1四半期業績と通期予想

◆ 財務戦略

：「稼ぐ力」「資本効率」を意識したROIC経営

◆ 株主還元

：着実に安定的な還元、配当目標 DOE 3%以上



2024年3月期 1Q実績

売上高 (前年同期比)

42,370 百万円 (△ 9.5%)

経常利益 (前年同期比)

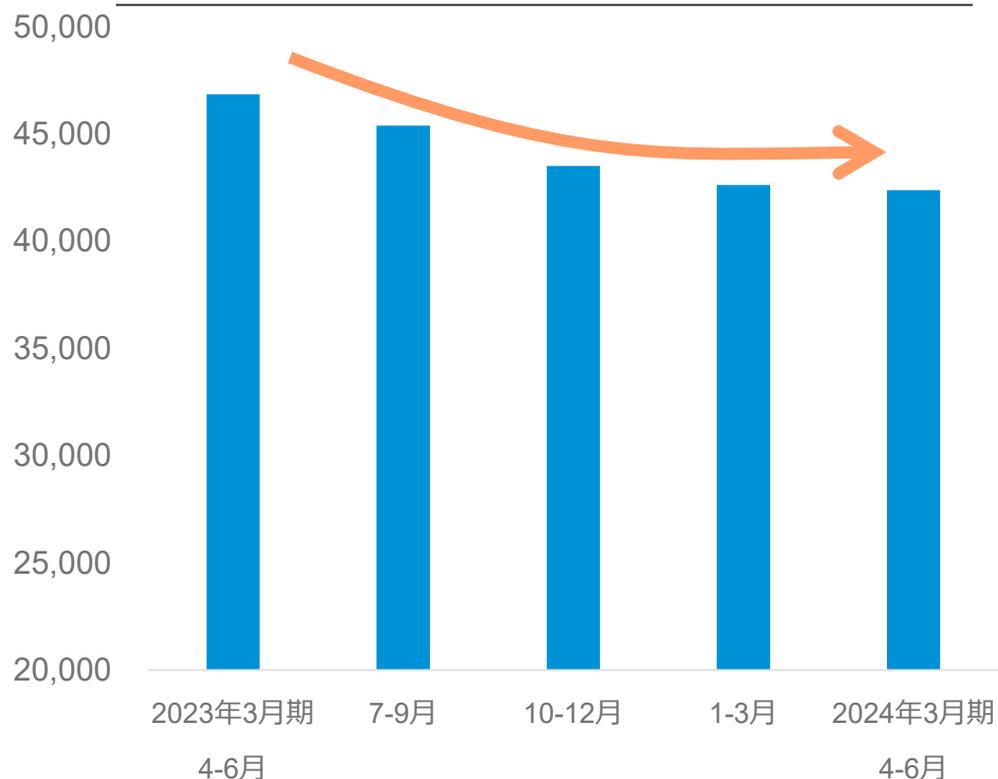
1,530 百万円 (△ 64.0%)

四半期純利益 (前年同期比)

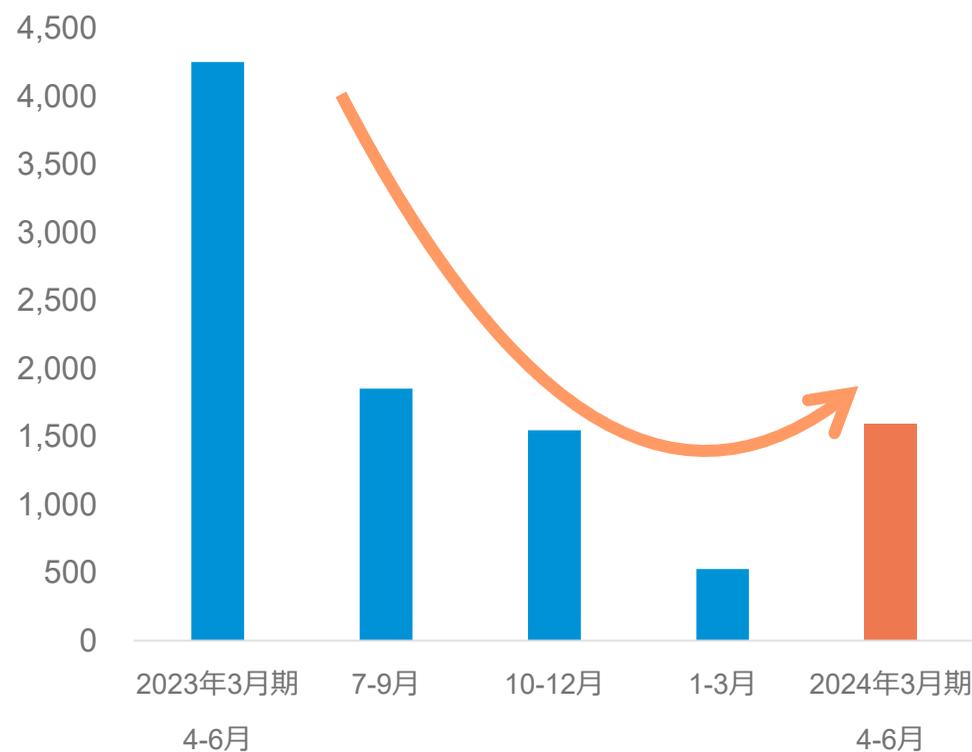
858 百万円 (△ 68.4%)

前年同期に存在した市況急騰の影響は剥落
しかし **四半期ごとの経常利益は既に底打ち**

四半期ごとの売上高 (百万円)



四半期ごとの経常利益 (百万円)

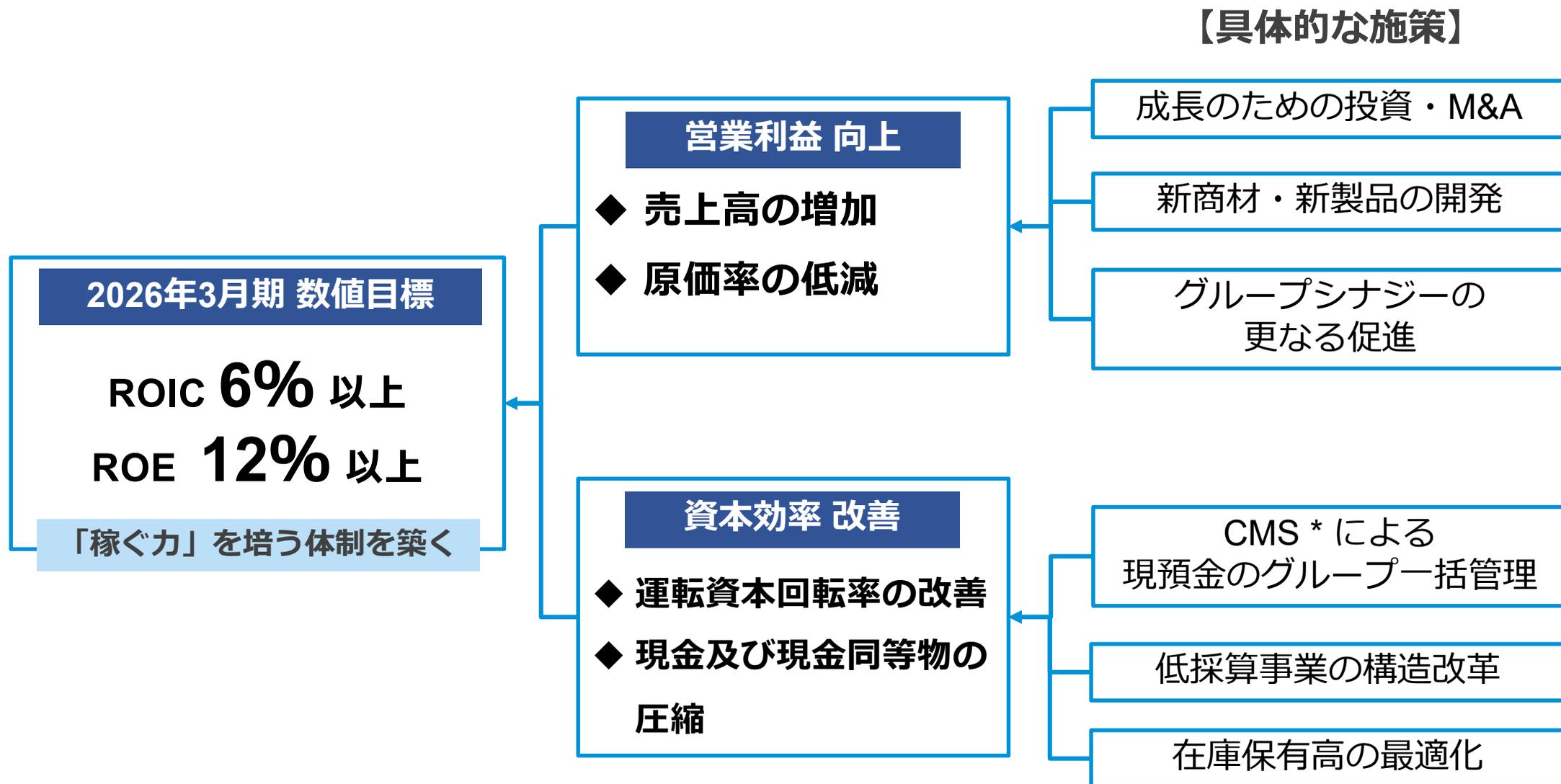


2024年3月期 通期予想

【外部状況の変化】 自動車生産の復調、スマートフォンなどのIT関連機器の生産の持ち直し

【内部取組の進捗】 自動車関連の受注回復、下半期以降の価格転嫁の進展

	2023年3月期 実績	2024年3月期 通期予想
売上高	178,333 百万円	186,000 百万円
経常利益	8,176 百万円	8,200 百万円
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,488 百万円	5,500 百万円
EBITDA	13,245 百万円	12,800 百万円



*CMS:キャッシュ・マネジメント・システム

配当予想

2024年3月期配当の状況

※2023年5月12日発表

2023年9月末
(中間配当予想)

27円 +

2024年3月末
(期末配当予想)

27円 =

年間

54円

株主優待

1年以上保有頂いた株主様に向けて、優待制度を設けています。

当社が厳選した商品を
カタログギフトより
お選び下さい



DOE（株主資本配当率）指標導入について

年間配当総額

配当額の下限

- ① 株主資本が一定ならば、配当額が下限を原則下回らない
- ② 株主資本が増加すれば、配当下限額が上昇

株主資本配当

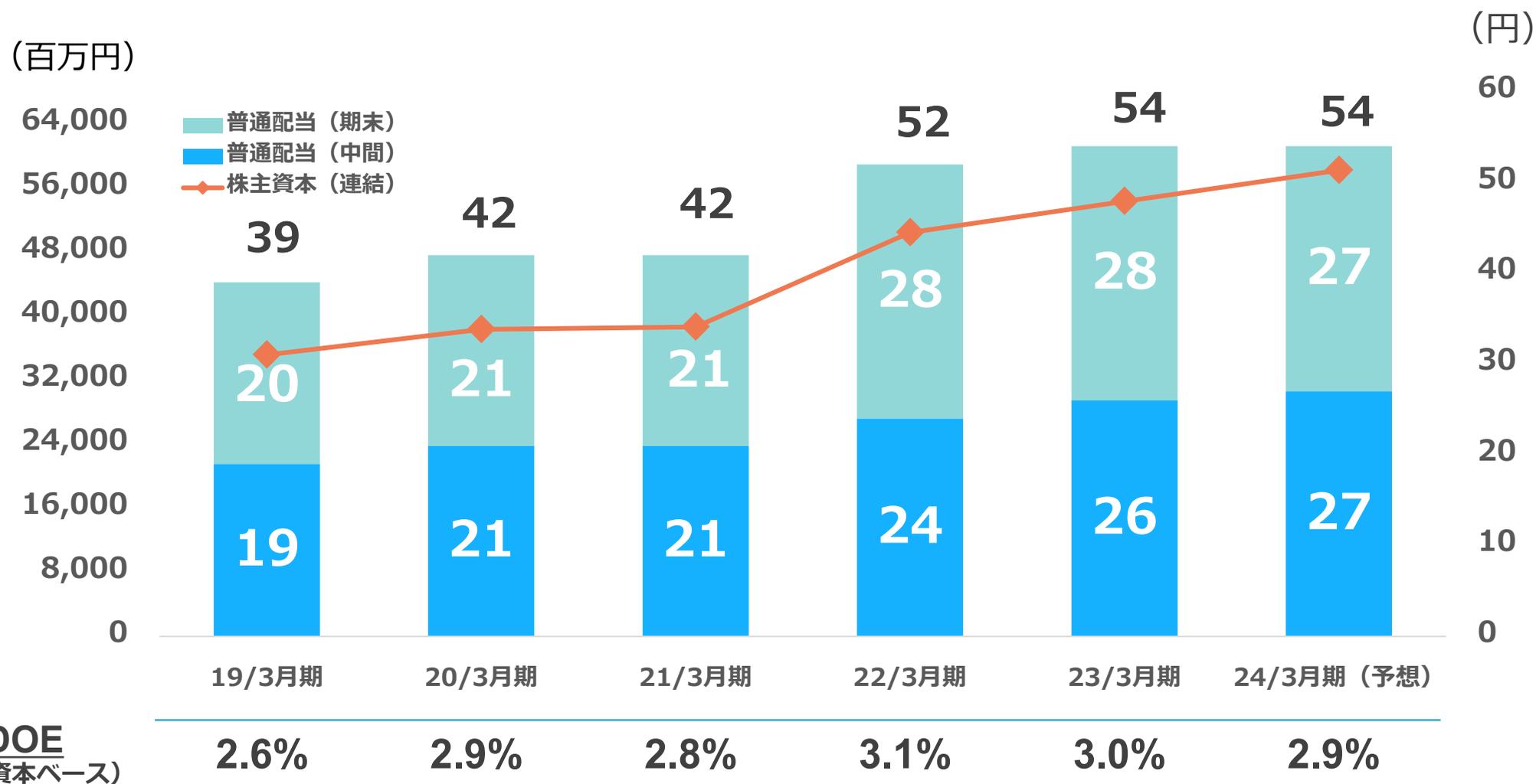
X期

株主資本総額

DOE目標：3.0%（2026年3月期 計画値）

DOE = 1株当たり年間配当額 ÷ 1株当たり株主資本x100

株主資本の蓄積に合わせて 配当額も安定して推移



DOE
(株主資本ベース)

※ 当社試算

「価値共創」のM&A

- ◆ 当社の強み：「**商社流通 × 製造**」
- ◆ **補完 + 事業承継**
：企業価値と社会価値の両立
- ◆ **日本のモノづくりへの貢献**
：商社流通の力を活かし製造業を発展



商社流通と製造の両セグメントの強みを互いに活用
より多くの需要家へ より多くの商品を提供



商社流通セグメント

商社として
卸売・流通

製造セグメント

メーカーとして
加工・製造

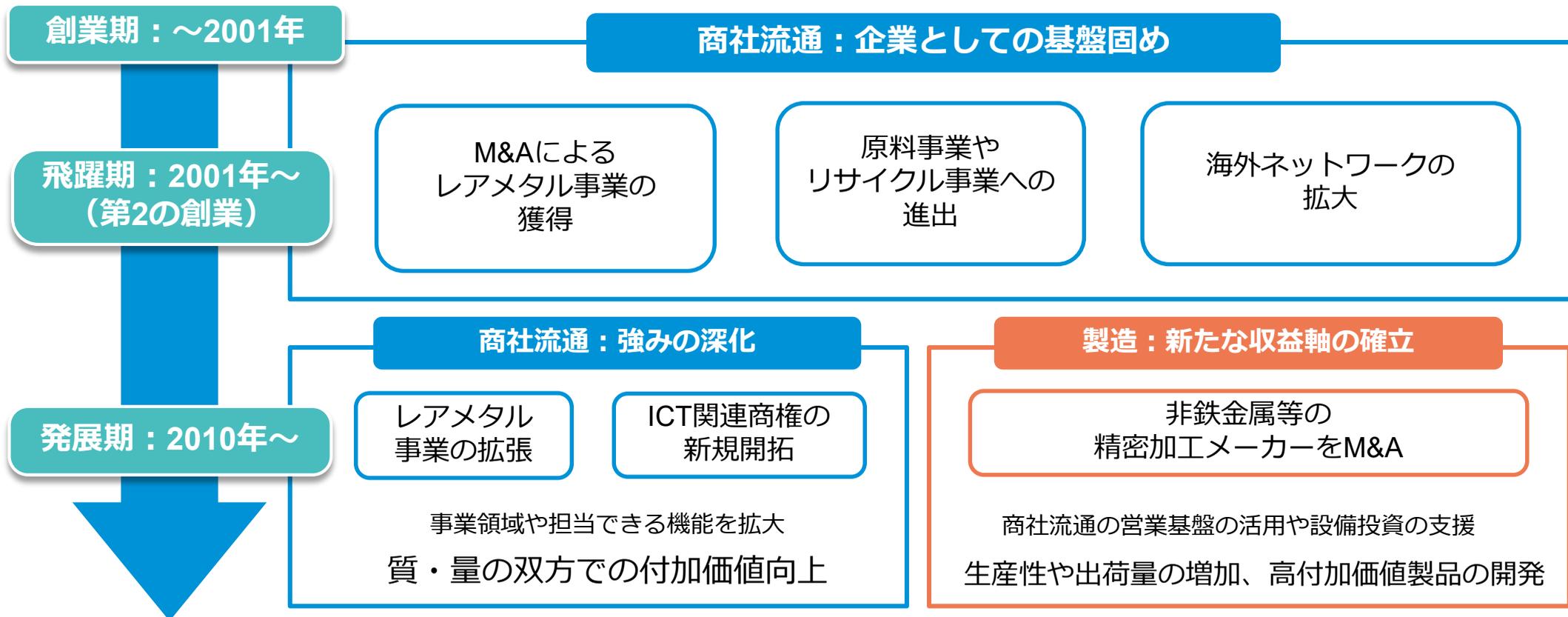
コーポレート部門

両セグメントをつなぎ
事業と商流を組織化する

顧客情報の共有・紹介
設備投資の支援
新規事業の開発

非鉄金属の専門商社 から M&A／成長投資を経て 独自の事業形態を確立

M&A実績：21件（うち製造：11件）※2023年6月末時点



特に「自動車」「半導体」「電子材料」の注力3分野に関する
「GNT企業」 * を目利きし、積極的にM&Aを実施

Growth (成長性)

- ◆ 自力での成長余力を持つ会社
(当社の支援で更に伸ばせる会社)

Niche (ニッチさ)

- ◆ 競争力を長く保つことができ
ニッチ分野で活躍している会社

Technology (技術力)

- ◆ 既存事業との強い関連性を持つ技術
- ◆ 陳腐化しない (応用性の高い) 技術

* GNT企業とは、本来「グローバルニッチトップ企業」を表す経済用語。

商社流通で培った 「目利き力」

- ▶ 良質な製品を製造し提供する力
- ▶ 技術の高さと応用力
- ▶ 当社グループの既存事業との親和性
- ▶ 経営者のモノづくりに対する姿勢

GNT企業をM&A

グループ内で対応可能な
金属加工技術 や素材を多様化・高度化
(製造プロセスの垂直統合の実現)

グループ企業間の
技術提携

受注の相互分担
人員・設備の相互融通

新たなビジネスの創出

【社会的価値】 事業承継型 M&A

- ◆ 製造業の日本回帰に対応
- ◆ 事業承継問題の解決に貢献
- ◆ 貴重な技術を継承・発展
- ◆ 地域の雇用や経済に貢献

CSV経営

社会と経済の 共有価値を創造

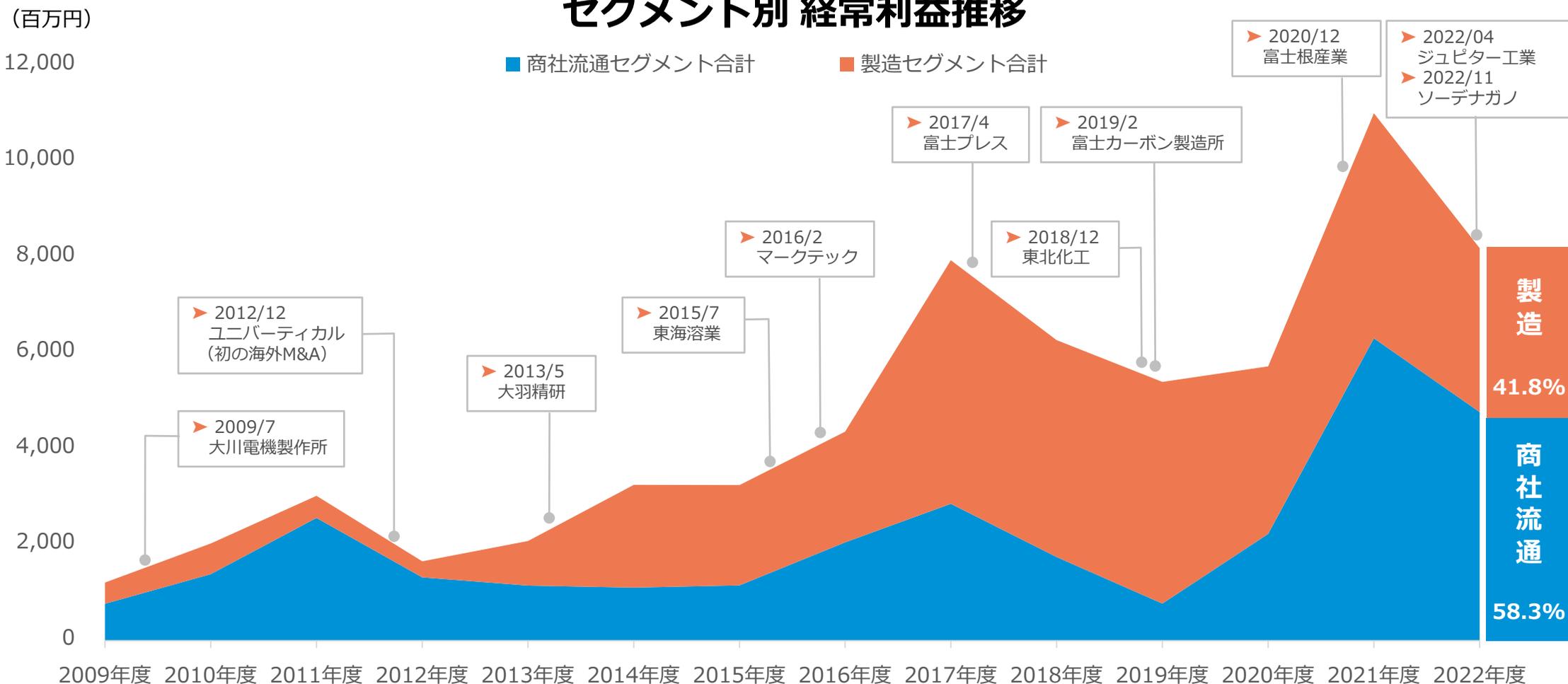
【経済的価値／企業価値】 補完型 M&A

- (ALX グループ全体)
- ◆ 対応可能な技術分野を拡大
- ◆ グループシナジーにより収益力を強化
- (グループ各社)
- ◆ 生産能力の増強と顧客の共有により新規受注を獲得
- ◆ 更なる成長のための投資資金を確保

※CSV経営 = 社会課題の解決を通して企業の経済的利益を得るという考え

製造セグメントが収益を安定的に牽引する構造

セグメント別 経常利益推移



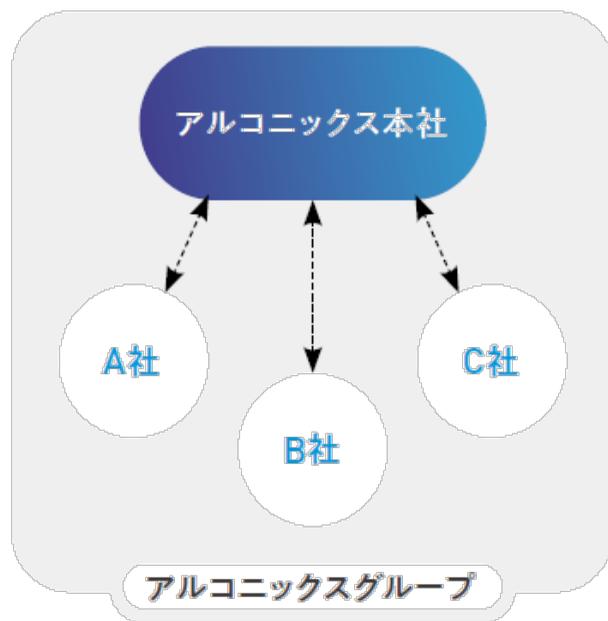
「夢を描き、形にする」事業戦略

- ◆ 収益力向上を目指したグループ連携を強化
- ◆ 成長分野へ事業ポートフォリオを展開
- ◆ 非鉄金属でサステナブルな社会の実現に貢献

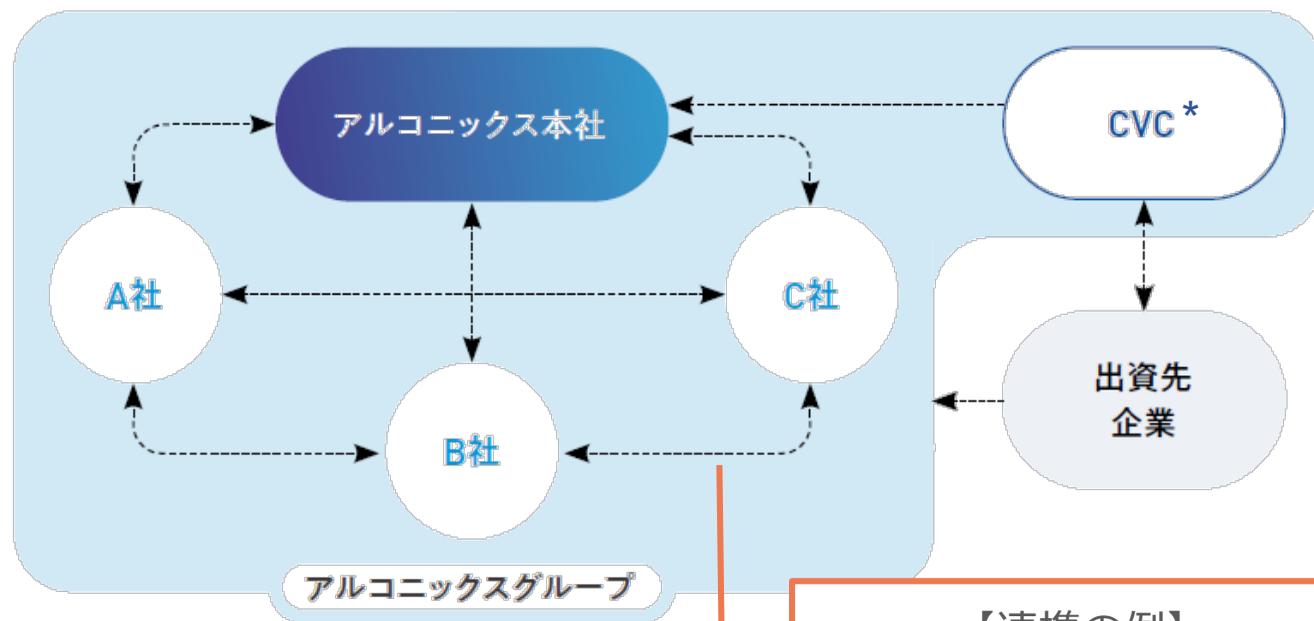


当社グループが目指す新たな成長ステージ

【これまで】
アルコニクス本社と
各社のシナジーを重視



【これから】
グループの一体化とCVCの活用 → **収益力向上**



【連携の例】

- 人的・技術的な交流
- 生産活動の分担
- 調達先・顧客の共有

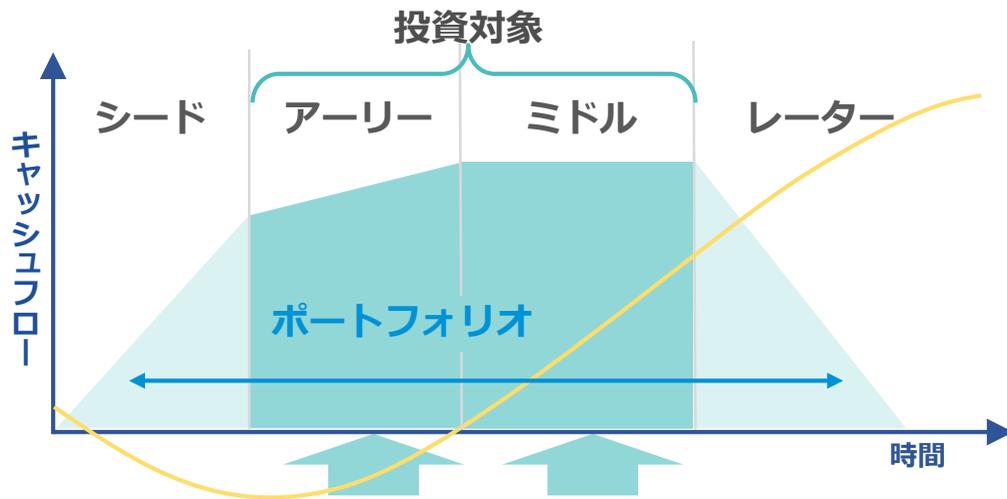
* コーポレートベンチャーキャピタル



事業シナジーとキャピタルゲインを目指す

～素材・モノづくり分野でスタートアップ企業を中長期に支援し
新規事業の創出を目指す～

CVCの投資対象



アーリー・ミドルステージを中心に
有望ベンチャー企業に戦略と資金提供の両面で支援

【投資先事業領域】

素材 (Material)

電子分野：機能材・構造材・半導体材料など
エネルギー分野：電池や燃料電池、モーター、熱交換器など

モノづくり (Manufacturing)

基礎技術：マテリアルインフォマティクスやAIなど
製造技術：省人化や生産効率向上のためのロボティクスや検査装置など

投資先との事業シナジー推進体制

商社流通面

ALXグループ
商社流通機能を活用

- ◆ **グローバル販売/
マーケティング支援**
顧客ニーズ発掘 / 紹介・提案、
横展開/販売促進
- ◆ **グローバル調達支援**
原料・材料の調達、
トレードファイナンス

製造面

ALXグループ
製造子会社を活用

- ◆ **グローバル開発・製造支援**
試作開発、受託加工/生産、
設備・機器の改修/保守
- ◆ **パイロット導入・実証支援**
モノづくり技術をALXG製造
子会社へパイロット導入・
実証支援、その後本格導入

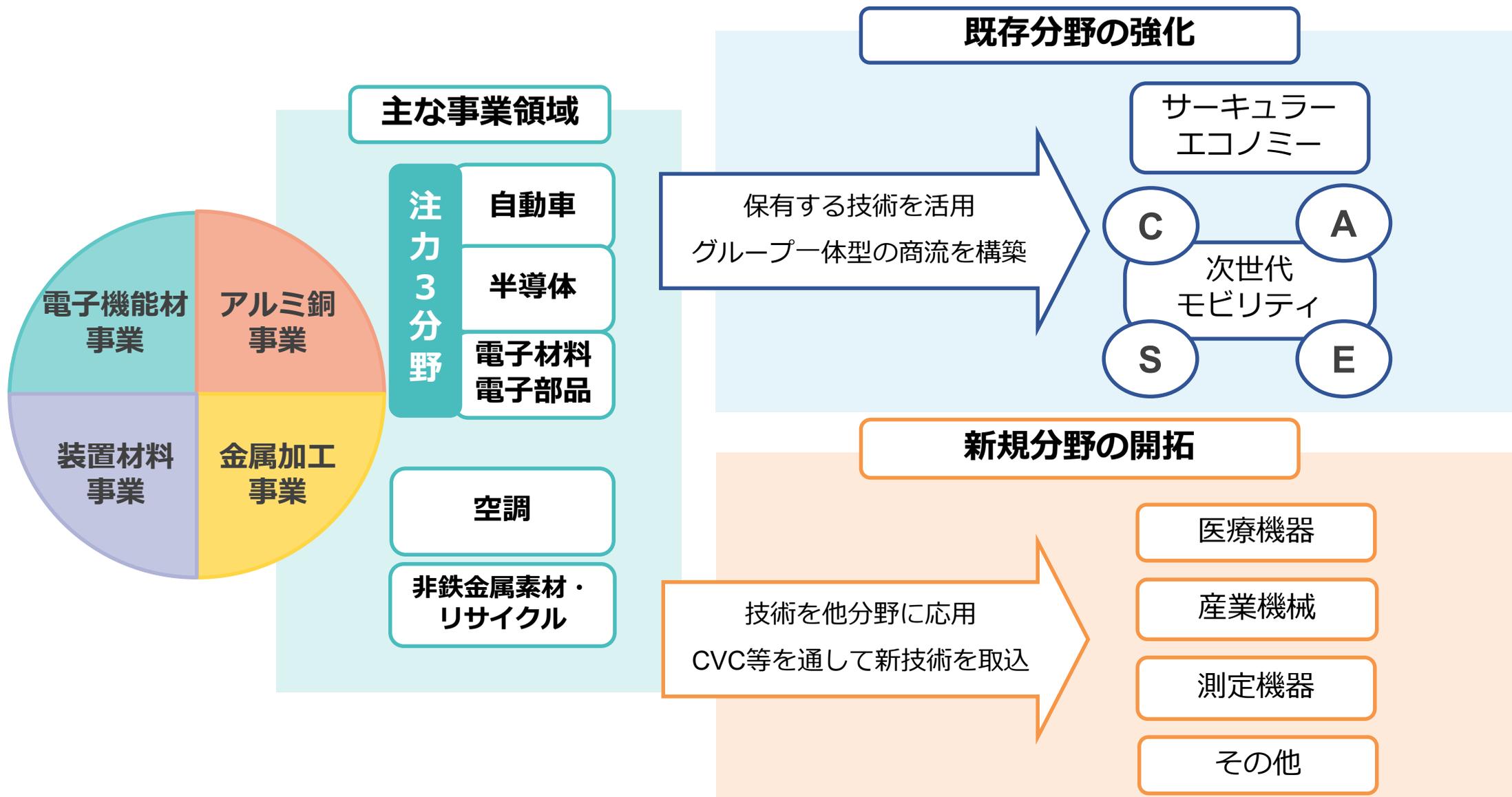
推進チーム

Team Catapult

ALXグループ事業シナジー推進チーム

- ◆ **営業部門横断のプロジェクトチーム**
商社流通・製造両面において投資先をハンズオン支援、
事業シナジーを追求

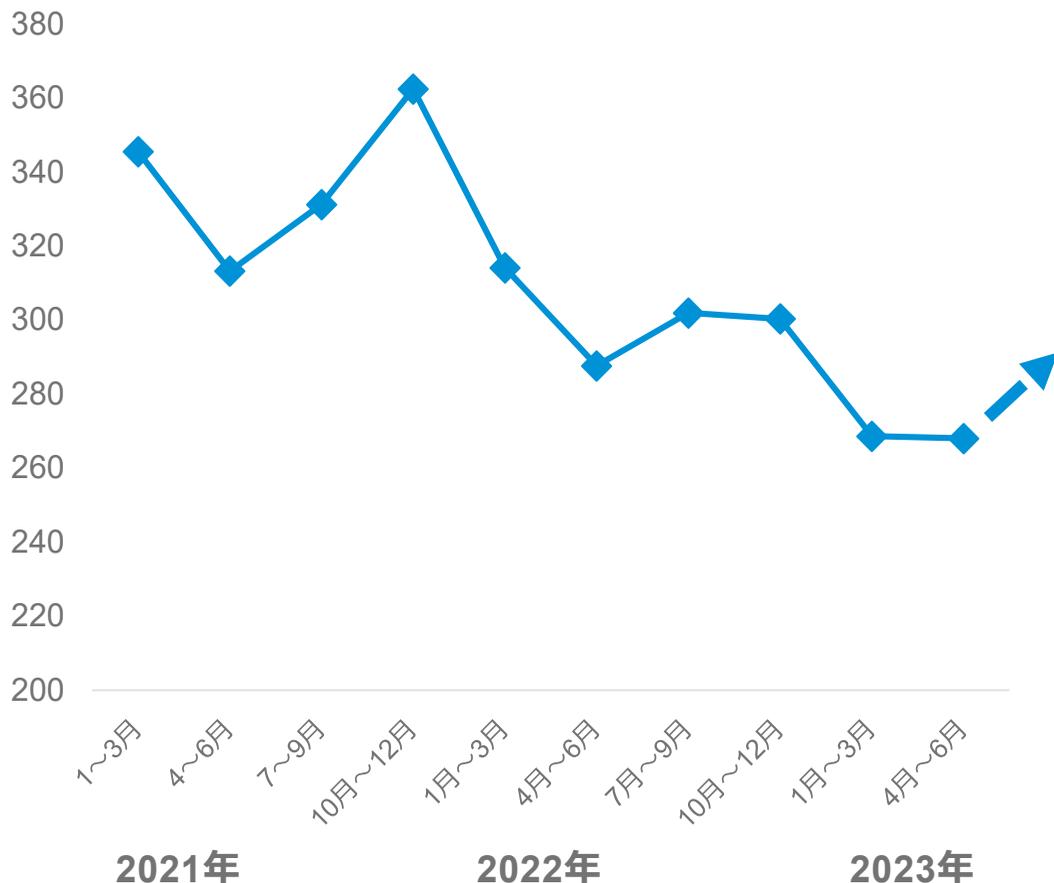
グループ一線で事業を創出、日本のモノづくりに貢献



スマートフォン生産は在庫調整を経て 今期下半期以降 徐々に回復
自動車生産はコロナ前の状況に戻りつつある

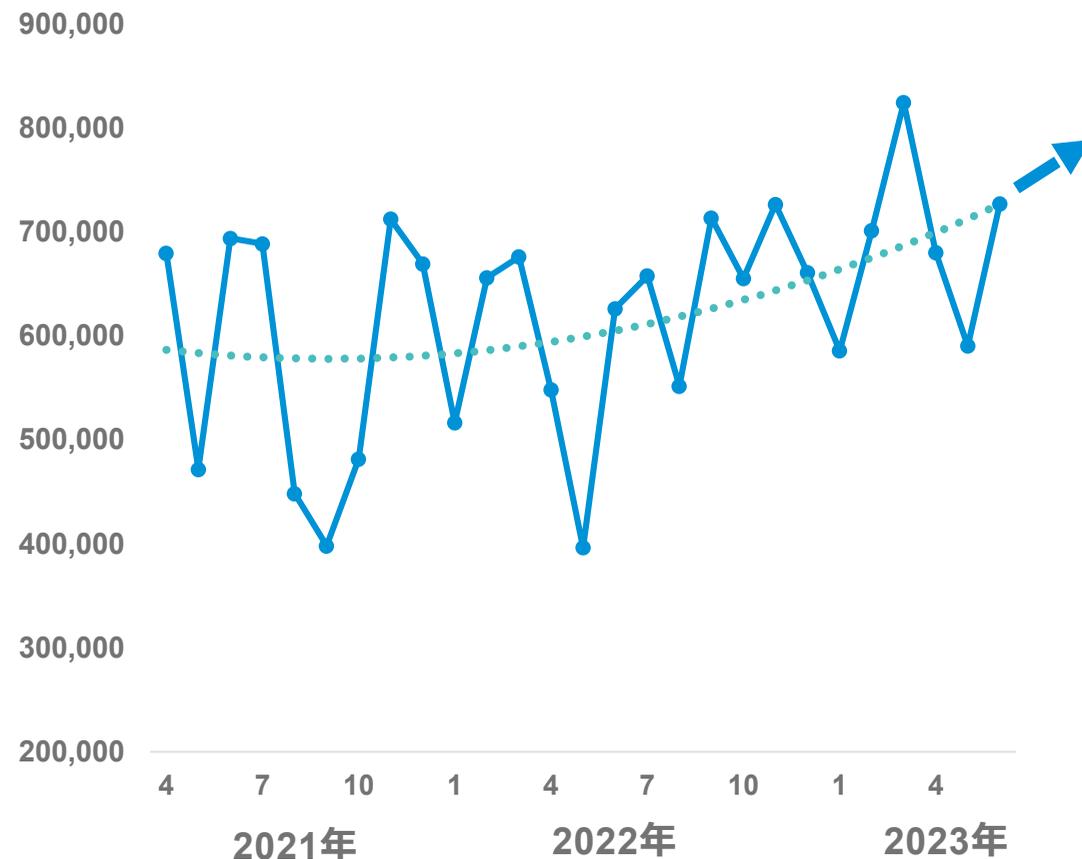
世界スマートフォン生産台数 (百万台)

(米 International Data Corporation (IDC)社のデータを元に当社作成)



日本自動車生産台数 (台)

(マークラインズ社のデータを元に当社作成)



自動車やデータセンター、工作・産業機械向けの出荷が
今後の半導体需要の伸びを牽引

半導体 用途別市場予測

(米 Gartner社のデータを元に当社作成：グラフの数値は2021年実績を100とする指数表示)

半導体の市場規模は
2026年に **110兆円** に到達
(2021年より **26%** 増加)



- 産業機器
- サーバー等
- 映像機器 (TV、ゲーム)
- 自動車
- その他通信機器
- パソコン・タブレット
- スマートフォン

2021実績

2023予測

2026予測

EVシフトやDX進展等で、当社関連業界の中長期的な展望は良好
業界のプレイヤーやルールの変動を機敏に捉えていく

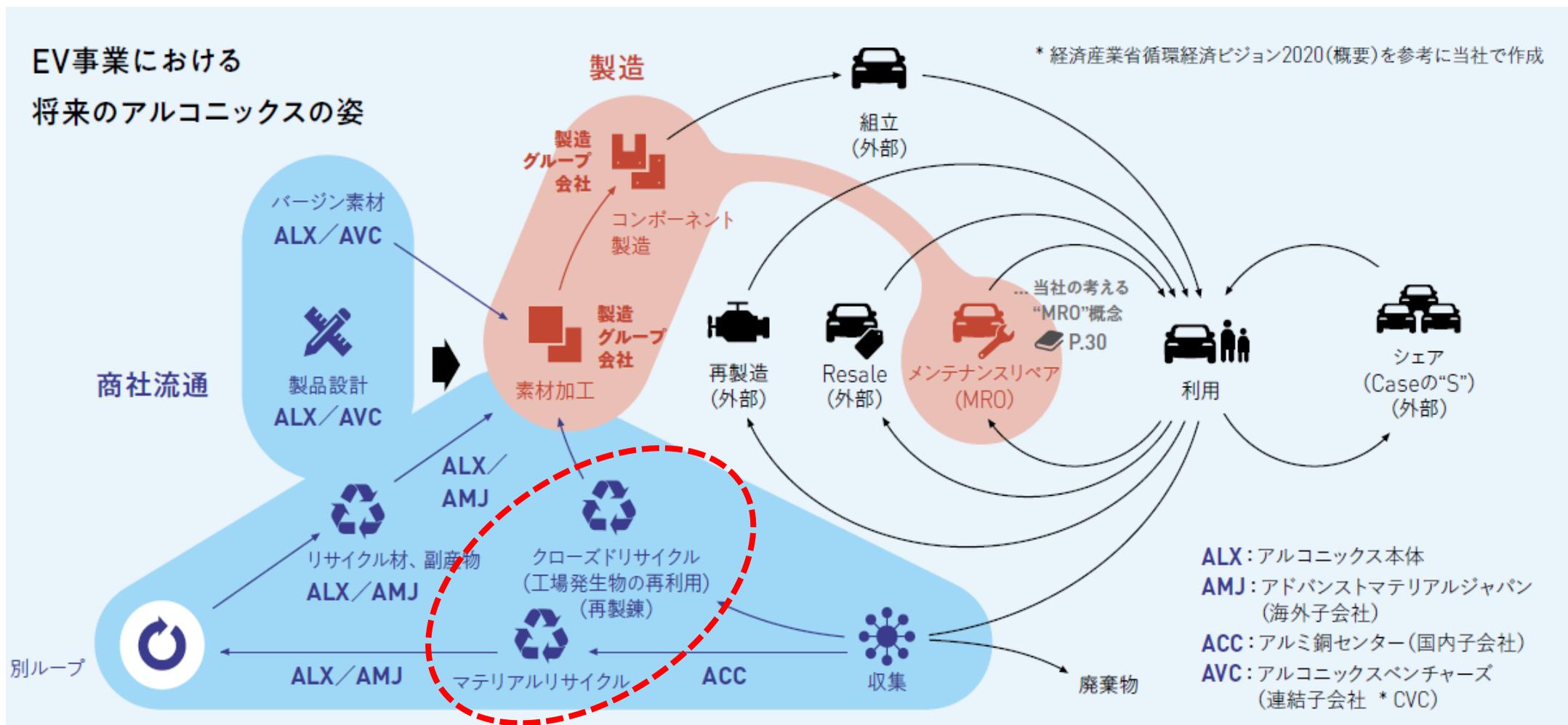
	2023年度 環境認識	中長期的な見通し	
当社グループの主な事業領域	自動車	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 完成車生産が回復基調 ◆ 当社の自動車関連出荷も回復 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 非鉄金属を多用する次世代モビリティ（EV・FCV等）への移行が加速 ◆ 当社グループが持つ営業基盤や技術力を積極的に展開、EV時代に適用した商材や製品、ソリューションの販促を進める
	半導体	<ul style="list-style-type: none"> ◆ メモリ需要は停滞、半導体設備向け投資も短期的には下落基調 ◆ 当社関連出荷は年明け頃の復調を予期 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ データセンター向けや自動車の電装化向け需要が大幅に伸長 ◆ 当社の半導体関連素材の取引高の成長に加え、半導体製造装置関連の出荷も増強を図る
	電子材料 電子部品	<ul style="list-style-type: none"> ◆ スマートフォンの在庫調整は緩和 ◆ 新型iPhoneの発売等に合わせて回復と見る 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ スマートフォンや各種産業機器の高性能化に伴い、電子部品の一台当たり使用量は増加 ◆ CVC等を通して、先端技術に関わる新規商権の確立を図る
	空調	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 欧州や中国の購買力低下に伴い一時的に需要低下 ◆ 当社既存取引の取扱量は下落気味 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 家庭用・業務用 共に空調機器の需要は増加、完成品メーカーも増産体制を構築 ◆ 日系空調メーカー各社との連携関係を元に、空調関連商材の納入を積極的に強化する
	非鉄金属 素材・ リサイクル	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 概して実需減少により市況下落 ◆ 市況の収益底上げ効果は剥落 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 環境規制の強化や資源の困り込みにより、資源リサイクル需要は増加 ◆ 環境親和型事業の一環として、既存のアルミ・銅に加え、レアメタル・レアアースまでを含む資源循環事業の拡大を図る

当社の主な取扱品目の一覧

	自動車 (部品・材料)	半導体	電子材料 電子部品	その他
電子 機能材	<ul style="list-style-type: none"> EV/FCV部品材料 車載電池用材料 	<ul style="list-style-type: none"> 半導体各種材料 	<ul style="list-style-type: none"> 携帯機器端末部品材料 IT機器部品材料 各種電池材料 	<ul style="list-style-type: none"> 特殊鋼素材（レアメタル） ※ニッケル、モリブデン等
アルミ銅	<ul style="list-style-type: none"> 電装部品 自動車構成部材 	<ul style="list-style-type: none"> リードフレーム用銅条 	<ul style="list-style-type: none"> コネクタ部品 プリント基板部品 	<ul style="list-style-type: none"> 建築資材 電気設備部品（ブスバー） アルミ缶材 熱交換器用素材（チタン他） 医療向けチタン展伸材 空調機器向け材料 (アルミ圧延品・伸銅品)
装置材料	<ul style="list-style-type: none"> 自動車構成部材用めっき材料 金型用溶接材料 ブレーキパッド用カシュー樹脂 自動車生産ライン向け 非破壊検査装置／化成品 電装部品用モーター部品 	<ul style="list-style-type: none"> 半導体用めっき材料 	<ul style="list-style-type: none"> 電波吸収体 	<ul style="list-style-type: none"> 非破壊検査装置／検査用化成品 マーキング装置 電気設備部品（ブスバー） 電波吸収体 電動工具／家電等向けモーター部品
金属加工	<ul style="list-style-type: none"> パワートレイン向け部品 EV車載電池向け部品 自動車試作部品 	<ul style="list-style-type: none"> 製造装置向け部品 実装装置向け部品 	<ul style="list-style-type: none"> コネクタ端子部品 	<ul style="list-style-type: none"> 航空機用部品 空調機器向け部品

サステナブルな社会の実現に向けて：リサイクル事業 ①

グループ内でクローズドループを確立し、
循環型社会に貢献



事例紹介



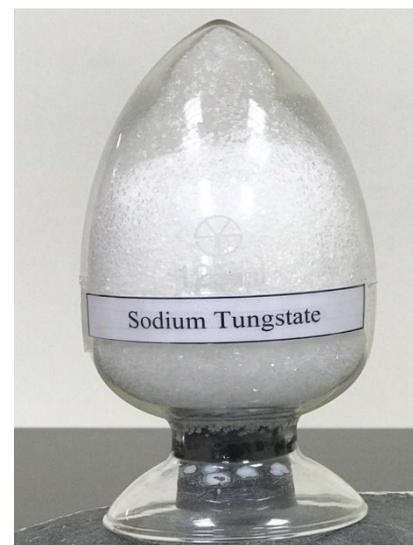
アドバンストマテリアルジャパン (AMJ) による レアメタル・レアアースのリサイクル事業の取組

① 台湾：タングステンスクラップの回収、原料として再資源化

回収



再資源化



② タイ：出資先の会社によるタングステン・タンタルスクラップの加工・選別

～ 『夢みた未来を描く』～

「アルコニックス 統合報告書2023」では、当社の財務・非財務情報を
統合的にご確認いただけます



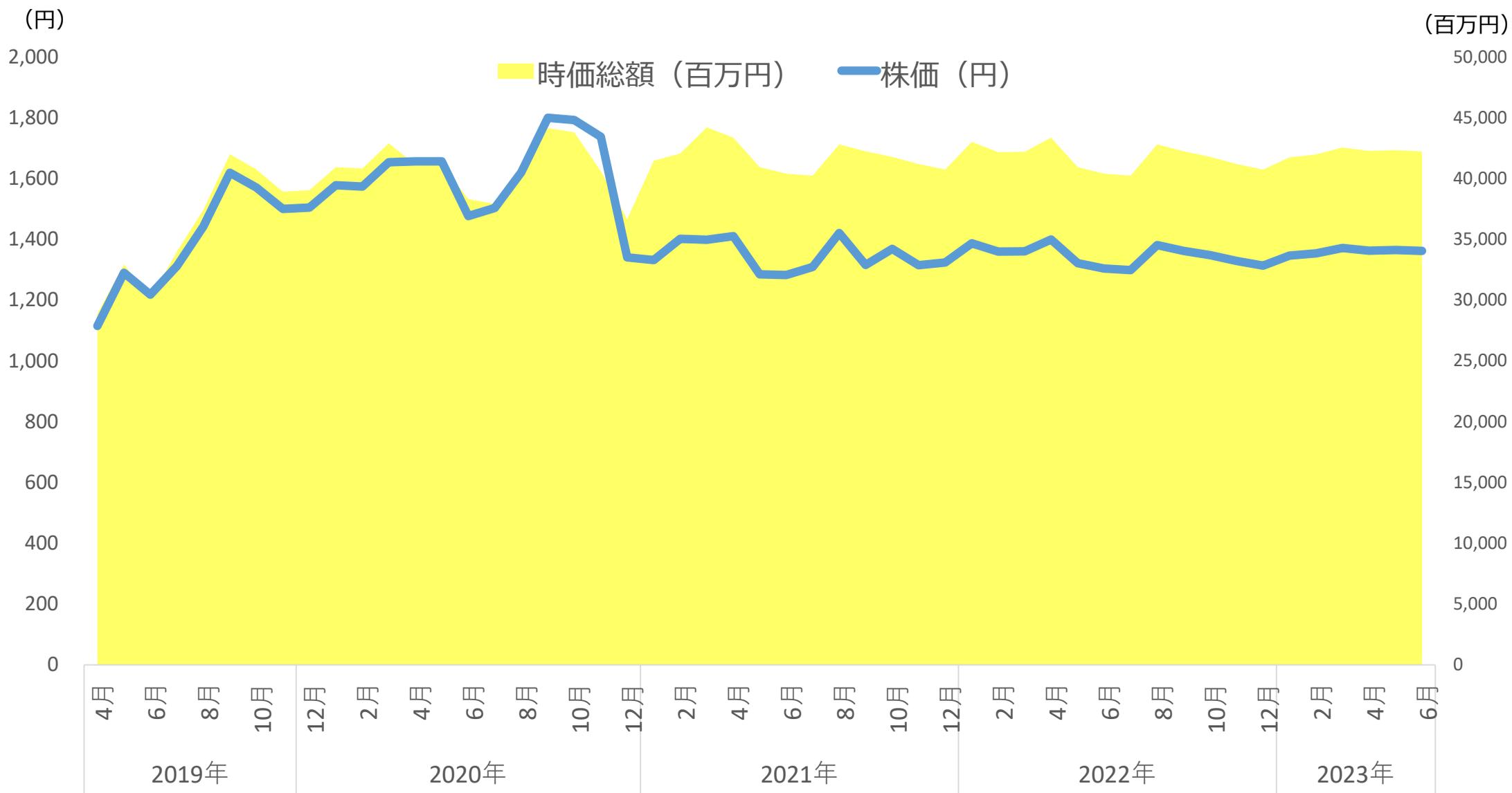
《 「統合報告書2023」 主な内容 》

- ✓ CEOメッセージ
- ✓ COOメッセージ
- ✓ こんなところに「アル」コニックス
- ✓ CSV経営を推進するM&A体制
- ✓ Sustainability
 - H:人的資本
 - E:環境
 - S:社会
- ✓ Corporate governance

(参考) 株価指標

株価／時価総額

2019年4月～2023年6月



市況・為替

- ◆ 原則、市況の影響はヘッジ対応
- ◆ 一部取引には市況リスクあり
- ◆ 地政学的要因にも影響され得る
- ◆ 当社グループは外貨建て取引が多く、
総じて円安はプラスに働く傾向

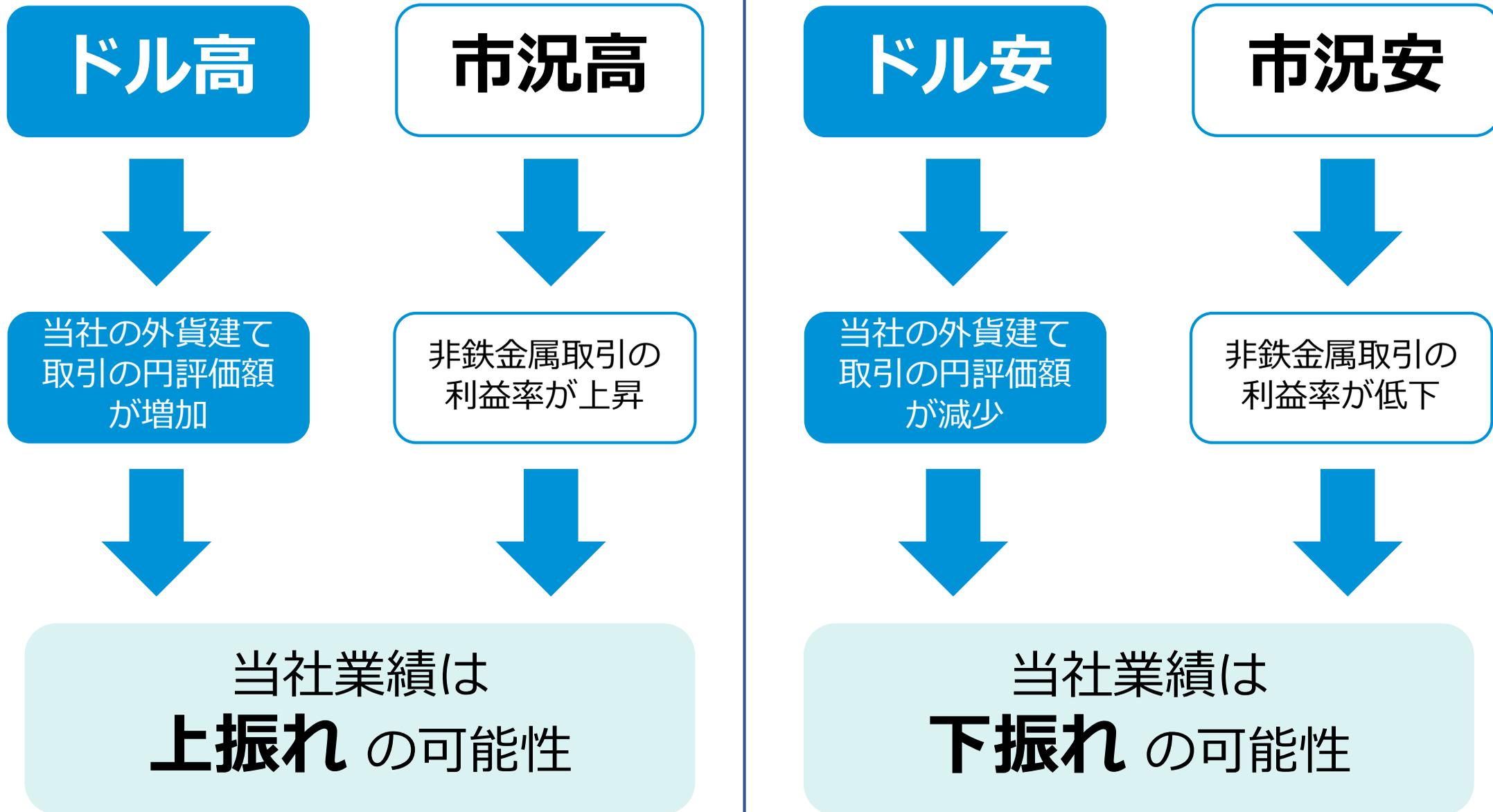
コストアップ対応

- ◆ 価格転嫁の交渉の遅れ

地政学リスク

- ◆ 中国経済の減速
- ◆ ロシア・ウクライナ情勢の悪化

(参考) 市況・為替リスクに関するシナリオ



気候変動への対応

- ◆ 脱炭素に貢献する製品向けに非鉄金属の素材・部品の取扱を戦略的に強化
- ◆ 国内製造拠点への再生可能エネルギー導入を促進



(例) 富士根産業 (静岡県沼津市)
工場建屋への太陽光パネル敷設

2022年度
当社グループ国内拠点
温室効果ガス排出量

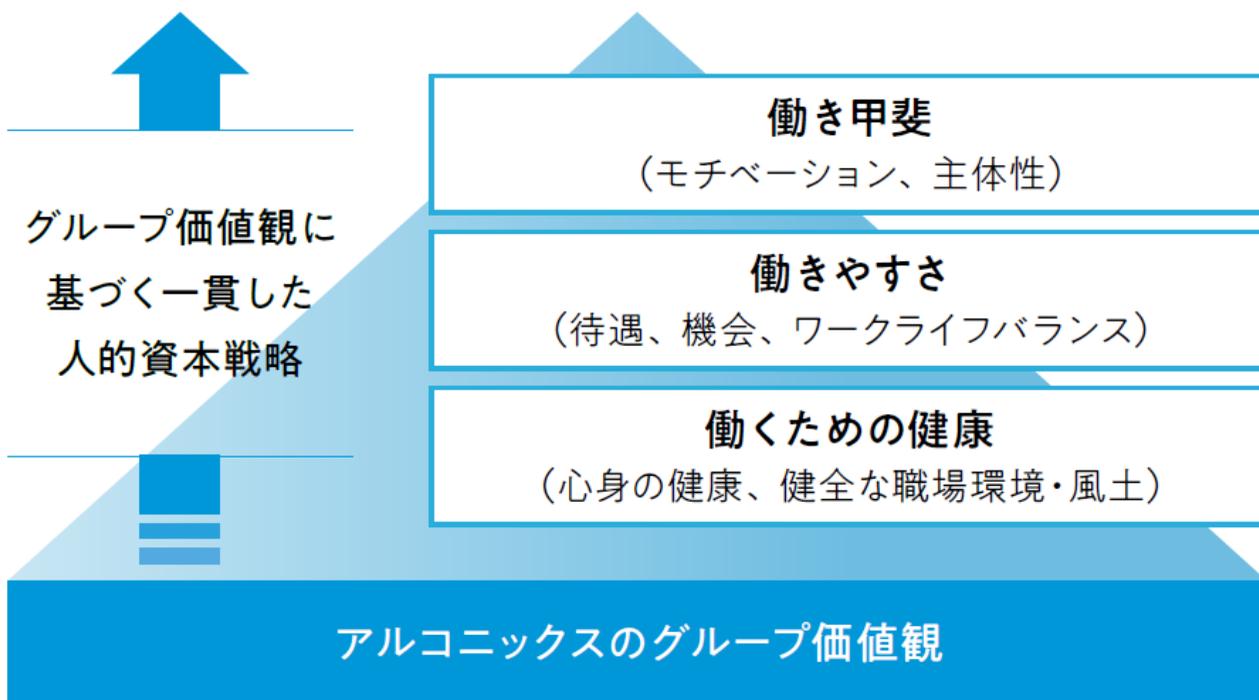
16,567 t-CO₂
(Scope 1/2)

非鉄金属のリサイクル

- ◆ 創業以来の中核事業としてアルミ・銅のリサイクル事業を運営
- ◆ 現在、北九州市にてグループ一体型の総合リサイクルセンターを建設中
関東地区等にも開設を検討
- ◆ 脱炭素に伴う希少金属の需給ひっ迫に対応した、環境負荷の小さい手法によるレアメタル・レアアースの再資源化事業に出資

(参考) 当社グループの「人財」育成について

アルコニクスグループが求める「人財」の定義
「夢を描き、形にする」能力の持ち主



【取組事例】

- 総合職と一般職の職種統合を含む人事制度改革
- 賃金改定(ベースアップ)の実施
- 教育研修体系の拡充
 - ・自律的なスキルアップと主体的なキャリア形成を支援
- 女性活躍推進 女性管理職比率向上
 - ・(予定)女性リーダー育成セミナーの開催
- 育児・介護両立支援制度の拡充
 - ・性別に関係なく仕事と育児・介護の両立を支援する制度を法定を上回る基準で整備
- キャリア希望申告制度
 - ・中長期的なキャリア、能力開発への考えを上司・部下間で共有し、人材育成に活用する制度
- 健康経営の推進
 - ・社員の健康増進施策
 - ・管理職へ向けた女性の健康配慮への取り組み
 - ・健保組合と連携し、検診データの活用
- 相談体制の拡充
 - ・健康相談



本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは異なる結果となることをご承知おきください。